

ジャンボタニシの被害対策をいしましょう！！

- ジャンボタニシによる稲への食害は、田植え直後から多発します。
- 被害防止に向け、田植時期（4月～7月）は地域一体で対策に努めましょう。
- 特に冬から春先にかけてジャンボタニシの越冬場所となる部分を重点的に駆除しましょう。



● 卵塊除去と成貝捕殺に取り組みましょう！！

POINT

- ・落水時に効率的に駆除しましょう。
- ・産卵から1週間経過した卵は水中に落ちてても孵化するため、除去もしくは潰すようにしましょう。

注意点

- ・貝や卵は素手で触れず、手袋をしましょう。



ジャンボタニシの成貝

● 農薬散布で被害を軽減しましょう！！

POINT

- ・使用基準・登録内容に沿って適切に使用しましょう。
- ・状況に応じ、殺貝や食害防止を目的とする農薬を適切に散布しましょう。



ジャンボタニシの卵塊

● 浅水管理で貝の活動を抑えましょう！！

POINT

- ・水深が浅い(3cm以下、理想は1cm以下)と、貝の活動が鈍り食害が抑えられます。
- ・田面が露出すると雑草が発生しやすくなるため、細かい水管理が重要です。

● ほ場への侵入防止をしましょう！！

POINT

- ・水路(特に排水路)との出入口に9mm目合い程度の網を設置し、侵入を防ぎましょう。
- ・農機を介した未発生ほ場への貝の持ち込みにも注意しましょう。



田植え後に食害にあったほ場

● 石灰窒素散布は慎重に行いましょう！！

POINT

- ・水温15℃以上、かつ、3～4日以上湛水可能なほ場で効果が期待できます。
- ・魚毒性が高いため、水路への流出防止として散布後は1週間以上は水を保ちましょう。
- ・田植前に散布する場合は、基肥施用量に配慮し、適切な肥培管理に努めましょう。

注意点

- ・石灰窒素の使用回数は1回のため、収穫後に散布した場合は田植前に散布できません。

より詳細なジャンボタニシ被害対策については、コチラ

